

## <今朝の聖書から>

村上定幸

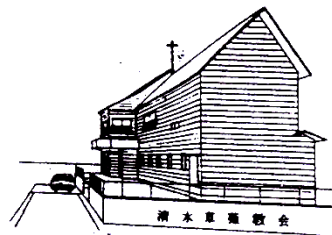
【ねどこ】“寝床”という落語があります。今日のたとえ話の初めのところは、この話に似ています。長屋の大家は下手な義太夫にこっぴどいて、家賃もろくに払わない借家人たちを集めて、自慢の喉を披露しようというところから始まる話です。豪華な膳を用意して集めるのですが、“風邪をひいちゃったんで”、“ちょうど法事で”とか、いろいろな理由をつけては断るといわけです。“良い家主で、面倒見も良いのだがねえ、どうも、あの義太夫さえなかつたらねえ！”と長屋の人々は話を交わします。ところが大家にとっては、お金には余裕があったと見えて、この義太夫が命。これは落語の話ですが、もっと深刻な話があります。“教会は、結構面白いのだけど、あの説教さえなかつたら”とか“こんなことさえさせられなかつたら”なんて思うことないでしょうか。仮に今はそうでなくても、想像することはできると思います。ところが、そのことが教会の中心だったら、復活という希望とは関係のない別の理由で教会にやってきて、信仰とは関係のない理由で教会を去ることになります。

【招き】聖餐のたびに、私たちは招きの言葉を頂きます。ここでもイエスは、招きについて語られます。しかも、この章を初めからみると分かるのですが、重ねての招きになります。買ってしまった鳥を何故今この時に見に行かなければならないのか。買ってしまったのだから、人手に渡ってしまうことはない(14:18)のです。どう見ても“理由のための理由”ということになるでしょう。14:19も同じです。14:20も同じです。主の招きに応え、信じて大切にすることのできない人たちの代表です。選ぶのは主のなさることです。ヨハネ15:16には“あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ”とこのことを書いています。“キリストを信じようかどうか”とか、“私には信仰が必要かどうか”ということを考えて選んだのではないのです。ところが、主イエスを選んでしまうことが多いのです。こちらが主を選んだとすれば、主の方を選びから外してしまうことも考えながら、教会生活をおくるという寂しいことになります。14:21の僕(たち)は弟子のことでしょう。この弟子が主に報告をします。これ以下も選びは、主のものなのですが、“付き合いで接待を考えることのできない、困った貧しい人たちを求めなさい”と指示をされます。“むしろ、宴会を催す場合には、貧しい人、体の不自由な人、足の悪い人、目の見えない人などを招くがよい。そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたはさいわいになるであろう(14:13~14)”という言葉が成就することになります。私たちは復活に対して何の返礼もできないことは明らかです。

【無理にでも】これは“つよく”または“熱心に”という意味です。週報のページに毎週“伝えよう救い主を”と書かれているのは、この意味です。この喩で、イエス様は、教会の使命を語ります。“私は救われた”と私たちは口にしますし、そうなのです。けれども、立派な信仰を持った者が、招きの答える“能力”を持っているのではなく、力のないことを知っている者が力を持っているのです。

# 週報

2011年 6月 26日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042